



ガソリン補助延長へ 首相、与党に検討指示

政府は10月以降もガソリン価格高騰に対する激変緩和措置を続ける調整に入った。9月末に期限を迎える現行の補助金の延長も含めて検討する。岸田文雄首相が22日、月内に具体案をまとめるよう与党に指示した。燃料以外の物価高への対応策を9月中に打ち出す。

首相は同日、自民党の萩生田光一政調会長と首相官邸で会い「燃料油価格の対策に緊急で取り組む必要がある」と伝えた。その後、記者団に「9月上旬には効果が実感できるように今月内に成案を得る」と表明、9月にかけて全般的な経済対策を議論すると述べた。

資源エネルギー庁によると、足元のレギュラーガソリンの店頭価格（全国平均、14日時点）は1リットルあたり181.9円。15年ぶりの高い水準だ。5月下旬から13週連続で値上がりしている。

政府は22年1月からガソリン価格の激変緩和策として石油元売りに補助金を支給し、それを反映させて消費者への価格を抑えてきた。23年1月からは支給の上限額を減らし、6月からは補助率の縮小を始めた。

ほかには電気・ガス料金への支援が9月末に期限を迎える。政府は延長するかどうかを判断する。補助金による価格抑制策には批判的な見方もある。



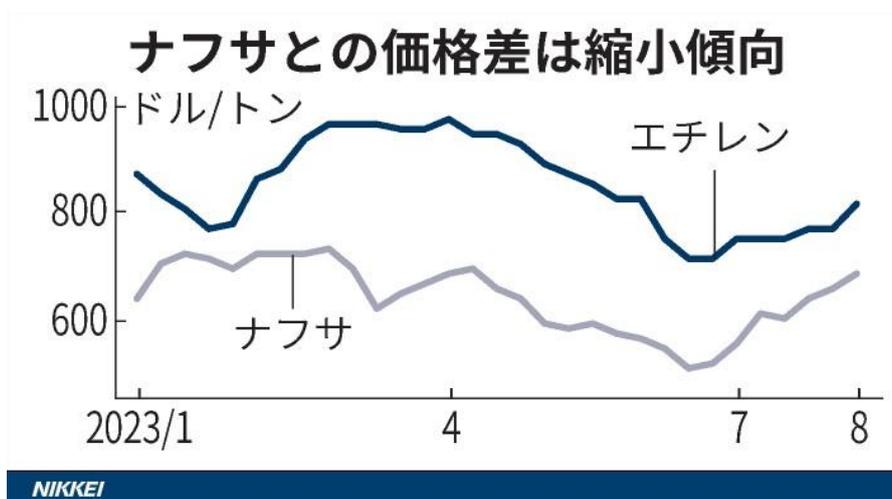
エチレン「900ドル台まで上昇も」アジア市場、原油高で

――ナフサ（粗製ガソリン）のアジア価格は6月下旬に1トン500ドルを割り込みましたが、その後反転し上昇基調です。

「原料の原油価格が上がっている。産油国のサウジアラビアが自主減産を9月も継続すると決めたことや、米連邦準備理事会（FRB）による利上げが終結するとの観測が出ていることが背景だ。ナフサも原油価格の上昇に連れ高している」

――ナフサを分解してできるエチレンのアジア価格も上昇しています。

「エチレン相場は1トン800ドル台前半で推移している。ナフサ価格の上昇を受けてコストプッシュで上がっている。ただナフサとエチレンのスプレッド（利幅）は芳しくない。エチレンを原料とするポリエチレンなどの需要が総じて低迷している」



――コスト高を転嫁できるだけの需要がないということでしょうか。

「中国経済の回復の遅れが響いている。エチレンからつくる石化製品は包装材や日用品など幅広い用途に使われるが、消費が振るわない。中国ではモノより旅行などコト消費の需要が回復傾向にある」

「日本も低調だ。エチレンの生産設備稼働率は、6月まで11カ月連続で好不況の目安となる90%を下回った。自動車関連は持ち直しているが、日用品向けは低迷したまま。物価高に伴う消費者の節約志向がある。新型コロナウイルス禍の物流停滞や工場閉鎖のリスクを背景に、需要家が積み上げた中間在庫の消費に時間がかかっているとも聞く」



—一年末に向けてエチレン価格はどう推移しますか。

「原油相場の先高観からエチレンも上げ基調で推移するとみる。原油相場の国際指標である北海ブレント原油先物（期近）は現在、1バレル85ドル程度。原油が95ドル程度まで上昇し、中国などの需要がある程度戻ってくれば900ドル台まで回復してくるのではないか」

「ただ、世界の増強設備が稼働して、需給がなかなか引き締まらないことも予想される。稼働率が低迷する状況は続くだろう」

・需要不足で上値重い展開も

2023年の世界のエチレン需給見通しでは、約2億2600万トンの供給能力に対して需要は約1億8100万トンにとどまる。供給過多の状況だ。市況が持ち直しても、需給バランスの悪さから減産傾向が続くとみられる。

中国経済の先行き懸念は根強い。景気刺激策への期待感はあるが、業界では「景気回復は24年になるのでは」との見方もある。原油相場の上昇はエチレン価格の押し上げ要因だが、需要がついてこなければ上値が重い展開となる可能性がある。



廃棄物から水素ガス、燃料に活用

2020年設立のAlchemist Material（アルケミストマテリアル、埼玉県川口市）は、廃棄物から水素ガスを生成する小型装置の製造を始める。1号機は24年末にもインドネシアで導入される予定だ。工業団地の運営企業が低純度水素を生成し、発電に使う需要を見込む。事業拡大に備え、第三者割当増資などで計1億3000万円を調達した。



インドのロシア産原油輸入、7月は9カ月ぶりに減少 サウジ産も減

7月のロシアからインドへの原油輸入量は9カ月ぶりに減少した。サウジアラビアからの輸入も、石油輸出国機構（OPEC）と主要産油国で構成するOPECプラスの減産を受けて、2年半ぶり低水準となった。輸送関連や政府データで明らかになった。

ロシア産原油輸入は5.7%減の日量185万バレルだった。ただ、ロシアからの輸入は引き続き最も多く、イラクとサウジがそれに続く。

サウジからの輸入は26%減の同47万バレルだった。

インドの7月の原油輸入は6月から5.2%減少し、日量440万バレルとなった。モンスーン時期の保守点検で複数製油所が稼働を停止したことが背景にある。

インドは石油需要の80%以上を輸入に頼っている。



週間原油コストの推移

	期間	原油相場		為替(▲は円高)		円建て原油コスト	
		ドル/バレル	前週比	ドル/円	前週比	円/ℓ	前週比
火曜日～ 月曜日	7/11～7/17	80.14	3.12	140.52	▲4.53	70.83	0.57
	7/18～7/24	80.89	0.75	140.91	0.39	71.69	0.86
	7/25～7/31	84.73	3.84	141.71	0.80	75.52	3.83
	8/1～8/7	86.09	1.36	143.75	2.04	77.83	2.31
	8/8～8/14	87.52	1.43	144.90	1.15	79.76	1.93
	8/15～8/21	85.82	▲1.70	146.77	1.87	79.22	▲0.54
水曜日～ 火曜日	7/12～7/18	80.46	3.16	139.87	▲4.56	70.78	0.56
	7/19～7/25	81.57	1.11	141.45	1.58	72.57	1.79
	7/26～8/1	85.04	3.47	141.88	0.43	75.88	3.31
	8/2～8/8	86.19	1.15	143.87	1.99	77.99	2.11
	8/9～8/15	87.72	1.53	145.53	1.66	80.29	2.30
	8/16～8/22	85.53	▲2.19	146.90	1.37	79.02	▲1.27

※原油はドバイ、オマーン平均、為替レートは三菱UFJ銀行のTTSレート